



森林ふれあい情報

平成17年2月

創刊号

中部森林管理局木曾森林環境保全ふれあいセンター
〒399-6101 長野県木曾郡日義村4905-2
TEL: 0264(23)1080 FAX: 0264(23)1081
E-mail: kiso-fureai@rinya.maff.go.jp



城山国有林・児野山(ちごのやま)三角点付近から見た御岳

「城山史跡の森」における活動拠点整備の概要

木曾森林環境保全ふれあいセンターでは、平成16年4月の発足以来、長野県西部地震跡地における自然再生事業など様々な課題に取り組んで来ましたが、中でも特に力を入れたのが、木曾森林管理署管内・城山国有林（周辺の民有林・県有林等を含めた一帯を「城山史跡の森」と命名）における活動拠点の整備でした。

従来の直轄事業等とは一線を画した自主的な整備活動を推進するため、当センターでは、活動主体となるNPO団体の設立を働きかけるとともに、NPOと地元署との協定締結へ向けた橋渡しや、地方事務所、町役場、高校、大学、学識経験者等を巻き込んだネットワークづくりを行い、整備活動をサポートしてきました。

今回は、この「城山史跡の森」におけるこれまでの取組等の概要について簡単に紹介したいと思います。



尾根付近に見られるブナの大径木



木曽森林環境保全ふれあいセンターの主な活動範囲



静かな佇まいの福島城跡



城山の名所のひとつ・権現滝

①「城山史跡の森」の位置

名古屋からJRで1時間30分の木曽福島駅（上図中央下部）から、入口まで徒歩わずか10分程度という立地条件に恵まれた場所です。

②「城山史跡の森」の植物

史跡の森は、木曽五木の外ブナ、カツラ、トチ、モミ、ツガ等の樹齢300年以上の巨木が生育する森林で、400種以上の植物が生育しています。

また、隣接する民有地は、興禅寺郷土環境保全地域にも指定されています。

③福島城跡

木曽福島町のシンボリック的存在でもあるこの城跡は、天文年間木曾氏18代の領主義康によって福島城（上の段状）の詰めの城として築かれたと言われており、要害堅固な戦国末期の典型的な山城形式の史跡です。

④「城山史跡の森倶楽部」を設立

木曽福島町の市街地に隣接する城山の森林環境保全に取り組む「城山史跡の森倶楽部」が11月2

日発足しました。倶楽部では、同日木曽森林管理署長と国有林の森林整備と利用について協定を締結しました。

⑤協議会メンバー

主なメンバーは、史跡の森城山風景林を愛する会、NPOふるさと交流木曽（ふるさと体験館）、NPO木曽ひのきの森、地元関係地区、町、植物、昆虫、野鳥、歴史などの研究者、木曽山林高校、長野県林業大学校、木曽地方事務所、興禅寺等です。

⑥今後の活動

今後の活動は、協定に基づき、歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動等の事業のほか、パンフレット等を作成しそれぞれの団体活動の中で森の大切さ等をPRして行く予定です。

なお、活動は全てボランティアで取り組むこととしており、活動への参加を希望する団体や個人を更に募っていく予定です。



木曾福島町から見た「城山史跡の森」

NPO等への支援状況

「緑の挑戦者」森づくりへ間伐作業

NPO（民間非営利団体）名古屋市緑の挑戦者の第3回森づくり協力事業が10月30日に木曾福島町伊谷の町有林で行われました。

愛知や岐阜方面から、約40人が参加して間伐作業にはげみました。同団体が平成16年度からスタートさせた事業できれいで豊かな水を利用できるようにと、水源地の山の手入りを体験しながら育林の手助けをつづけています。

作業は、地元の役場職員や木曾森林環境保全ふれあいセンター職員の指導を受けて実施しました。

現地は、カラマツの20余年生、面積約3haの整備を陽光を考慮しながら、慎重に切り倒しました。

参加者達は、指導者の作業の注意事項、木の倒し方、検測処理を聞いて、早速ノコギリを使用して林業体験に汗を流していました。



親子で体験林業に汗を流す参加者

下流域中学生の林業体験学習

「ふるさと体験館木曾福島」では、木曾川で繋がっている上流域での体験により自分たちのふるさを見つめ直そうと、例年木曾地域を訪れている愛知県犬山市犬山中学校の生徒に対して、今年も5月18日に林業をはじめとする木曾谷文化の体験学習を行いました。

当日は、体験館を訪れた大勢の生徒のうち8名が、木曾森林環境保全ふれあいセンター職員の指導による間伐、枝打ち等の体験学習を行いました。

生徒達は、作業に先立ち各自ヘルメットをかぶり（ほとんどの生徒が初めてでした）、まず、森林には二酸化炭素を吸収し、大気を浄化する働きや水を貯える緑のダムとしての大切な働きがあること等の基本的な話を聞きました。

その後、枝打ち、間伐の実習に取り組みました。最初はへっぴり腰だった生徒達も、作業を行うに



センター職員の指導のもと枝打ち作業に挑戦

つれ次第に慣れてきて、最後の方では一人前の林業マンスタイルに変身していました。

普段林業に縁のない都会の生徒達も、すがすがしい空気を胸一杯味わい、心地よい汗を流して、大いに満足そうな様子でした。



緊張しながら除伐作業を行う子供たち

木曾森林環境保全ふれあいセンター の広報誌創刊に寄せて

4月に新設された森林環境保全ふれあいセンターも早いもので10ヶ月が経過しました。それぞれの「ふれあいセンター」では、地域の特徴を踏まえて独自性を出しながら取組みをなされていると思います。

ここ木曾森林環境保全ふれあいセンターが設置された木曾は、「木曾ひのき」のふるさととして知られ、御嶽山や木曾駒ヶ岳をはじめとした中央アルプス山系の雄大な山容に生まれ、山麓を流れる木曾川各支流は美しく、せせらぎが心地よい森林と水環境に恵まれた地です。また、事務所がある日義村は平安時代の末期に武家社会の先駆けとして時代を駆け抜ける様に活躍し朝日将軍として知られる木曾義仲公の旗揚げ地でもあります。

活動は、木曾谷（香川県とほぼ同面積）という

エリアの中で自然再生・森林ボランティア活動等の支援活動を行っています。今年度は、木曾福島町にある城山国有林を森林環境教育の場として活用することを提案し、NPOや地域のボランティア団体が協力して森林整備を推進することで協定が出来ました。

また、NPO等との連携を図りつつ、地域のニーズに対応した自然再生の取組みとしては、

- ① 長野県西部地震の復旧地における再生事業として、今年度、王滝村、中日親友隊及び阿久比高校により一部除伐が実施され、現在、被災跡地及びその周辺地域において、林分構造、樹種構成及び土壌生成の時系列変化を調査し、今後の維持管理手法を検討中です。
- ② 中央アルプス駒ヶ岳の登山道周辺で、森林生態系の現況調査を実施しています。また、検討委員会では「その場所に適切な本来の姿」に回復するため、荒廃の原因環境条件を把握し、今年度中にまとめ植生再生の方向性や手法を示すことになっています。今後は、それを受けて植生の再生事業の実施ということになります。

新しい組織であるがための悩みもありますが、自分たちで考えて実行できるものから各種の取組を進めてきました。この間、関係する諸団体の皆様や局署の特段のご理解ご協力に感謝しているところです。

このたび、私たちの取組状況を広報誌「森林ふれあい情報」として発行することになりました。せせらぎの水音の様な紙面を皆様にお届け出来る様に心がけたいと思います。ご一読いただければ幸いです。

所長 鷹野正美

編集後記

木曾森林環境保全ふれあいセンターが設置されて早くも1年が経過しようとしているこの時期ですが、ようやく広報誌の発行に漕ぎ着くことが出来ました。今後は年3回程度の発行を目指しますのでよろしくお願いいたします。

近々HPの立ち上げも予定しています。当センター独自の取組やイベント等の情報をたくさん盛り込んでいく予定ですのでご期待下さい。

昨年は自然災害多く、相次ぐ台風の上陸や大地震等により全国各地に大きな被害をもたらしました。被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。早い回復を願うばかりです。